

1 単元（題材） 本は友達

2 教科の目標

読み物には、様々な種類の文章があることを知り、これまでの体験を振り返って自分の読み方を自覚したり、印象に残ったことを交流したりして、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。

3 活用したICT

プレゼンテーションソフト プロジェクタ

4 活用したICTの特性

- ・ 文字の色、フォント、大きさの変更・削除などの機能を活用したり、写真、イラストの貼り付け機能を活用したりすることで、分かりやすく、早くまとめることができる。（プレゼンテーションソフト）
- ・ スクリーンに大きく映すことによって、どの席からでもはっきりと見ることができる。（プロジェクタ）



資料① スライド作成の様子

5 実践の様子

プレゼンテーションソフトを使っておすすめの本の紹介を行った。

まず、本の挿絵や表紙の写真を撮り、コンピュータに取り込み、大きさを変えたり、トリミングをしたり、飾り枠を付けたりして、写真に工夫を凝らした。その後、その写真を使いながら、「登場人物」や「おすすめのポイント」などを4枚程度のスライドにまとめた。（資料①）

子どもたちは、自分のおすすめの本を他の子にも読んでもらおうと、まとめ方を考え工夫していた。（資料②）文字やイラストをかくことが苦手で紙上に分かりやすくまとめることが難しい子も、プレゼンテーションソフトを使うことにより、きれいで見やすいスライドを作ることができ、満足そうだった。

発表会はプロジェクタで大きく映し、一人ずつ行った。（資料③）大きく映せることにより、どの席からもしっかりと見ることができ、本の表紙や挿絵もそのまま映せるので、聞き手は発表内容をイメージしながら聞くことができ、発表にひきつけられている様子だった。

発表後、教室に『クラスメイトおすすめの本コーナー』を作り、自由に紹介した本が読めるようにした。発表を聞いて気になった本を手にとって読む様子が見られた。読んだ子は、発表者に対し、感想を伝える様子が見られた。

6 成果と課題

- 文字の大きさや色、フォントを変更したり、写真を貼り付ける機能を活用したりすることにより、発表者の思いをスライドに表現することができ、自分と友達の感じ方の違いに気付くことができた。
- 字やイラストを使ってまとめることが苦手な子どもでも、プレゼンテーションソフトを活用することにより、見やすくまとめることができた。
- コンピュータが2人に1台しかなく、効率的に行えなかった。また、コンピュータを扱う技能に個人差があり、進度に差ができ、進め方が難しかった。

<p><b>あらすじ</b></p> <p>ある日、兄弟は、森の大きなカシの木の上にツリーハウスを見つける。ツリーハウスは、本の世界に、行ってしまふ。ついたところは、恐竜の時代。ワクワクドキドキの本を讀んだ！</p> <p>二人は、無事帰れるのか？</p>	<p><b>クイズコーナー</b></p> <p>こどものきれいな野菜の1位は何でしょう。</p> <p>1位 ?</p> <p>2位 ネギ</p> <p>3位 ナス</p> <p>4位 トマト</p> <p>5位 ブロッコリ</p> <p>答えはこの本を見てください。</p>
<p><b>おすすめポイント!!</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マリは、ひろわれてから1年後3びきの子犬をうむ。</li> <li>・ ある日マリとりょうたたちのすんでいる村に、大きなじんがおこる。</li> <li>・ そして、りょうたとマリは、はなればなれになる。</li> </ul> <p>③ ここからは、読んでみてね</p>	<p>①物語の続きが気になるまとめ方</p> <p>②本を読んで答えが知りたくなるまとめ方</p> <p>③聞き手に語りかけるまとめ</p>

資料② 工夫されたスライド



資料③ 発表の様子